

令和 7 年度県立高等学校・県立中等教育学校における

手話に関する 取組事例集



高校教育課

令和 7 年 11 月

はじめに

共生社会の実現を目指して、平成27年4月1日に神奈川県手話言語条例が施行され、令和5年3月20日に改正されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務や県民、事業者の役割を明らかにし、手話等の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として、社会的障壁の除去に関する必要かつ合理的な配慮を行うとともに、手話を使用する者の協力を得て、手話の普及等を推進すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう努めることが求められています。その趣旨に則って、平成28年度から令和2年度の5年間を見据えて「神奈川県手話推進計画」が策定され、現在でも継続して各学校で様々な手話の取組が行われております。

本事例集は、毎年5月の「手話の取組強化月間」を中心に資料を提供していただいた学校の協力のもとに作成し、今回で11集目になります。

今年はデフリンピック（耳が聞こえない、聞こえにくい人のためのオリンピック）が初めて日本で開催されます。今回はそのことをテーマにした取組も多く見受けられました。大会の成功を祈るとともに、更なる手話の普及に尽力していきます。

今後も、本事例集を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組の推進をお願いいたします。

令和7年11月

高校教育課

（表紙 神奈川県立商工高等学校 美術部 高鷹 息吹）

目次

◆手話のあいさつ	1
----------------	---

◆教職員の取組

1 磯子工業高等学校 職員会議で校内研修	2
2 座間総合高等学校 担当職員→担任・副担任→SHRで生徒に手話を紹介	3

◆授業での取組

1 柏陽高等学校 音楽Ⅰ：「翼をください」を手話で歌唱	4
2 小田原高等学校 英語コミュニケーションⅢ：手話を理解できるAIの紹介	5
3 三浦初声高等学校 保育基礎：デフリンピックを知り、手話ダンスを体験	6
4 津久井高等学校 コミュニケーション技術：デフリンピック等を学習	7

◆特別活動での取組

1 向の岡工業高等学校 帰りのHRでボランティア委員が手話をレクチャー	9
2 厚木清南高等学校 HR活動で日常生活においてよく使う手話を紹介	10

◆部活動での取組

1 生田東高等学校 JRC部：保育園ボランティアで園児に手話を紹介	11
2 横須賀高等学校 吹奏楽部：老人ホームでの慰問演奏会で手話を紹介	12
3 追浜高等学校 写真部：「手話月間・手話」をテーマに校内写真展	13

◆複数の活動での取組

1 金沢総合高等学校 授業と部活動と図書室で手話を活用	14
2 横浜旭陵高等学校 教室に指文字ポスターを掲示、図書室で指文字パズルを実施	15
3 湘南高等学校 図書館特設コーナーおよび情報Ⅰの授業	16

◆その他の取組

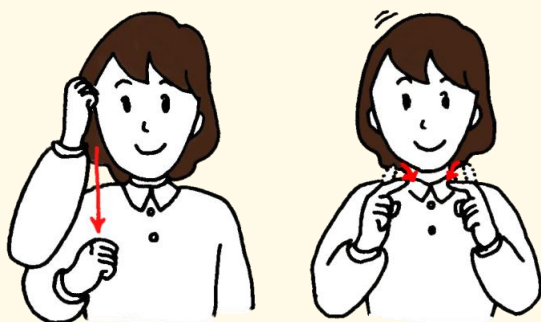
1 七里ガ浜高等学校 図書館のショーケースで手話に関する本を展示	17
2 厚木北高等学校 図書館前にポップを書いて手話に関する本を紹介	18

◆手話ポスター紹介

横浜旭陵高等学校、金沢総合高等学校、霧が丘高等学校	19
霧が丘高等学校	20
平塚江南高等学校、秦野高等学校、伊勢原高等学校	21

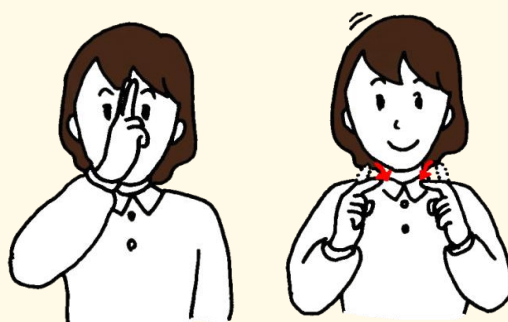
手話のあいさつ

おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

こんにちは



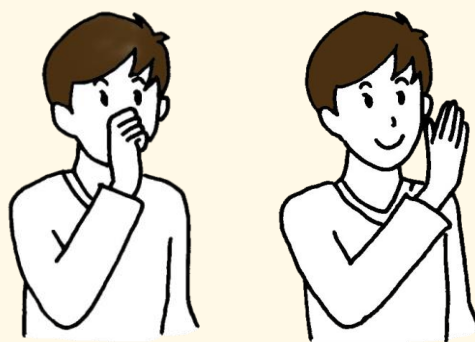
「昼」という手話（指で12時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

ありがとう



左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前に出して、手を開き、前に少し出します。

教職員

1

磯子工業高等学校

職員会議で校内研修

1 実施回数

1 回

2 対象者

教職員

3 実施者

生徒活動支援グループ

4 実施内容

5月22日(木)職員会議で手話の校内研修を実施した。例年実施されている12月の教職員対象手話講演会に、毎年参加している教員に講師を依頼し、「手話の基本作法」について研修した。親指を立てて握るしぐさがダメを表現する、チャイムが鳴っていることを電気のON/OFFで表現するなど、手話を必要としている方の目線での丁寧な説明があった。また、打合せ掲示板に、令和6年度の高校・中学校における『手話に関する取組事例集』を掲載し、教職員に活用を促した。

5 教職員の感想・様子等

研修参加者は、「手話の基本作法」について学ぶことができ、手話に対する興味・関心を持つことができた。

6 成果・課題

今回学んだことを生かし、生徒とともにできるような取組を実施する。

1 実施回数

5回

2 対象者

全生徒・全教員

3 実施者

手話月間担当教員（理科 伊坂優弥）

4 実施内容

朝の打合せで、担当教員が職員に向けて手話を3、4つ程紹介した。その際に、間違いやすい手話をあわせて紹介するなど理解を深める工夫を行った。その後、朝のSHRで、各クラスの担任・副担任が生徒に手話を紹介し、生徒に練習させてその意味を教える取組を行った。

今回の取組では、紹介した手話をすべて覚えさせることを目的としたものではなく、手話に触れる機会を設け、手話の必要性や誰でも簡単に手話でコミュニケーションをとれることを理解させる・感じさせることを目的として行った。

**5 生徒の感想・様子等**

「最初は上手に手話ができるかわからなかったため緊張して、真剣に取り組むことができなかったが、徐々に手話に慣れてきて堂々と取り組むことができた。」というような、前向きな感想が多かった。

6 成果・課題

最初は、生徒は恥ずかしそうに照れながら手話を真似する様子が見られたが、途中からその恥じらいが薄れ、堂々と手話を行う様子が見られた。教員同士・生徒同士がすれ違う際に、手話を用いてあいさつしている場面が見られた。

以上のことから、手話に対する理解が深まり、手話でコミュニケーションをとることに対する抵抗感がなくなったことが成果であると考えられる。

一方で、生徒が自ら手話を調べて使おうとする様子があまり見られず、興味・関心を深めるには至らなかった。今後は上記の点をどのようにして醸成していくかが課題であると考えられる。

1 実施回数

5回

2 対象者

1 学年 音楽選択者

3 実施者

芸術（音楽） 石井 舞

4 実施内容

神奈川県手話言語条例をもとに、手話についての説明の他、簡単なあいさつや、緊急時に使用する手話（神奈川県のリフレットより抜粋）、ディズニーランドで使われているキャストの手話バッジや、ガイド機器など身近な話題を用いて、手話について学んだ。相手の名前を聞き、答える簡単なペアワークでは、指文字を用いて互いの名前を確かめた。

また、指文字ではなく、「佐藤（＝甘い）」「渡辺（＝綿＋鍋）」などの苗字の手話単語にも触れ、体育祭に関連した色（赤、黄、黒、青）の手話単語では、言葉の意味と手の動きの関係性なども考えた。手話を用いた音楽ユニット「HANDS I GN（ハンドサイン）」のMV や、CODA（コーダ）をテーマとした映画について取り上げさらに、「翼をください」のサビ部分を手話を用いながら歌唱した。※ CODA（Children of deaf adults）

5 生徒の感想・様子等

ペアワークでは、積極的に自身の名前を指文字で表現し、やり取りする様子が見られた。50 音すべての指文字を覚えている生徒もあり、中学生のときに授業中に友達同士で指文字で会話し、先生に怒られたエピソードも披露してくれた。意味や漢字と指の動きから言葉を連想する場面では、発言が多く見られた。

**6 成果・課題**

小学校や中学校で取り組んだことがある生徒は少数で、初めて手話に触れる生徒が多いように思えた。授業内で継続的に手話を取り扱うことは難しいと感じるが、生徒たちの積極的な姿勢を見ると、あいさつや自分の名前など、身近な手話から、日常的に触れる機会を増やすことは可能かと考える。

授業

2

小田原高等学校

英語コミュニケーションⅢ：手話を理解できる AI の紹介

1 実施回数

1 回

2 対象者

全日制 3 年次 生徒

3 実施者

生徒支援グループ教員

4 実施内容

英語コミュニケーションⅢの授業において、AI を主なトピックとして扱うレッスンの導入の場面で手話の紹介をした。現在開発が進む様々な AI 技術を紹介する中、人の手の形から ASL を判別できる AI 技術を紹介した。その技術が紹介されている場面で ASL が使用されていたので、ASL と JSL の違いを簡単に説明し、最後に JSL での簡単なやり取りを紹介して、ペアで実際に練習した。

5 生徒の感想・様子等

手話に触れる機会が少ないので、楽しそうに取り組んでいた。スマートフォンなどの便利な機器が活用できる時代になっているが、手話を第一言語としている人々と少しでも手話でやり取りをすることで生まれる感情もあるだろうと話をしたときに、大きくうなずく生徒も多かった。

6 成果・課題

実際に日常生活で使用できるレベルまでの指導は難しいが、設定されている手話月間を活用し、年に 1 度でも手話に触れる機会を設定することで、手話をコミュニケーションのツールとして使用している方々がたくさんいるということを改めて認識するという意味で大切だと感じた。

※ASL=American Sign Language

※JSL=Japanese Sign Language

1 実施回数

2回

2 対象者

選択科目「保育基礎」選択者

3 実施者

家庭科教諭 平坂まゆみ

4 実施内容

「こどもの文化」「こどもの遊びと表現」の分野の学習として、本年度実施される「東京 2025 デフリンピック」について学び、保育者として多様な人の存在を学ぶ。神奈川県のアーティスト「HANDSIGN」のテーマ曲楽曲鑑賞及び幼児用の「手話ダンス」を視聴し体験した。手話ができる生徒は、内容説明と動きについて、他の生徒に教える姿も見られ、主体的に学習することができた。

5 生徒の感想・様子等

- ・「手話ダンス」は、手話だけよりもナチュラルに恥ずかしくてあまりできなかったが、手話は覚えていきたい。
- ・手話に興味がわき、楽しかったです。
- ・みんなの前でやったりするのは恥ずかしかったが、自信をもってできるようになりたいと目標ができました。
- ・デフリンピックのテーマ曲が、英語と日本語の手話が混じっていることを初めて知った。
- ・手話は難しい表現もあるけれど、覚えて伝えていきたいと思いました。
- ・ダンスに乗せると、少し手話が覚えられた。
- ・保育士を目指しているので、聴覚障がいのあることもコミュニケーションがとれるように頑張って覚えたい。



6 成果・課題

- ・生徒は、保育者の立場から手話の必要性を理解することができた。
- ・デフリンピックの開催等、聴覚障がいの情報が周知されていない部分があると感じた。
- ・今後も多様性とその在り方を保育者の立場から学べるように工夫していく必要がある。

1 実施回数

3回 (50分×3)

2 対象者

1学年福祉科 生徒

3 実施者

総括教諭 小田川紘子

4 実施内容

1. 手話を学ぶ前の事前学習 (50分)

社会における手話の必要性や手話の実践・活用場面、共生社会に向けての取組について学習した。

①聴覚障がい者雇用の取組について

②11月に開催される「東京2025デフリンピック」について

③手話クイズ

2. 実際に手話をやってみよう (50分×2)

①興味のある単語の手話表現調べ ※生徒のタブレット等を使用

②自己紹介 【例】こんにちは。私の名前は〇〇です。津久井高等学校で福祉を学んでいます。私の好きな〇〇は△△です。よろしくお願いします など

③簡単な会話の実践 【例】今日〇〇〔買い物、遊びなど〕に一緒に行きませんか。

④介護現場で実践できる手話 【例】これから〇〇〔食事、入浴、お手洗い、座る、立つなど〕のお手伝いをしてもよろしいでしょうか。体調は大丈夫ですか。体は痛いですか。 など

⑤災害時における聴覚障がい者への支援 【例】地震が発生しました。ここは危ないです。一緒に逃げましょう。安心してください。避難所へ案内します。 など

5 生徒の感想・様子等



- ・手話を実践してみると、内容に合わせて表情を活用することが大切だと思った。
- ・アルバイト中に聴覚障がいのある方が来店し、スマホのメモ機能を使ってコミュニケーションを図ったが、うまく伝わらない部分があった。そのようなときに簡単な手話を活用できると良いと感じた。
- ・災害時の支援について学び、手話は聴覚障がいのある方の命を助けることにもつながると思った。
また、手話とともに視覚からの情報を伝えることで、安心感を持ってもらえると感じた。

- ・聴覚障がいのある方は、災害時に助けを求めることが難しいことも考えられるため、周囲の人が協力して状況を知らせる必要性を学ぶことができた。
- ・デフリンピックというスポーツの世界大会があることを初めて知った。競技に取り組む様子は、障がいがあることを感じさせない迫力があつた。また、選手同士が手話でスムーズに会話している映像を見て、手話はろう者の方々にとっての重要な言語であることを学んだ。

6 成果・課題

生徒の反応から「手話は普遍的な言語コミュニケーションである」という認識が年々浸透していることを感じる。昨今の災害発生の多さも相まって、聴覚障がい者の日々の困りごとや必要とされる支援について興味・関心を寄せる生徒が比較的多かった。要配慮者への支援方法を習得することは、「心理的ファーストエイド」に寄与すると考えられる。傾聴や受容の姿勢とともに、当事者が求める支援を自然と実践できるよう学びを進めたい。また、本校福祉科では障がい者施設での実習を経験することから、手話月間や授業の単元以外でも手話や聴覚障がいに関する学習を継続的に行っていきたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（7月、9月）

サービス利用者に応じたコミュニケーション（聴覚障がいのある人とのコミュニケーション）

- ・聴覚障がいとは
- ・障がいの部位や障がいを有した時期による区分
- ・コミュニケーションの場面
- ・コミュニケーションの種類、ポイント

1 実施回数

5月27日～5月29日までの3日間

2 対象者

全校生徒及び教職員

3 実施者

ボランティア委員会

4 実施内容

帰りの HR で簡単な手話をレクチャーする。

(火)「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」(水)「よろしくお願いします」「ありがとう」

(木)「あぶないです。一緒に逃げましょう。」

事前にボランティア委員会を開催し、生徒に対してレクチャーすることで、ボランティア委員の生徒がクラス全体に対して主体的に手話を伝えることができた。

5 生徒の感想・様子等

- ・ボランティア委員が HR で手話をクラスにレクチャーする際に、口答での説明に加えて手話の動きを交えて伝え方を工夫することで、クラスの生徒が理解してくれた。
- ・普段使わない手話に触れることができてよかった。

6 成果・課題

教職員が主導するのではなく、生徒が主体的に取り組む活動にすることができた。今回はリーフレットを資料としてボランティア委員に配付したが、紙では手話が分かりづらいと生徒から意見が出たため、今後は手話の動画を作成し、Google Classroom を活用した取組も考えていきたい。



1 実施回数

1 回

2 対象者

全生徒

3 実施者

HR 担任

4 実施内容

手話強化月間の一環として、各ホームルームにおいて次の内容で手話の紹介活動を実施した。手話が単なるジェスチャーではなく、独自の文法を持つ一つの言語であることについて解説した。

聴覚に障がいのある方々とのコミュニケーション手段である手話の重要性、そして手話が音声言語と同様に豊かな感情や情報を伝えられる表現方法であることを説明し、多様なコミュニケーションの在り方について考えを深めた。

「こんにちは」「ありがとう」「ごめんなさい」といった、日常生活で頻繁に用いられる基本的なあいさつの手話を、実演を交えて紹介した。

生徒たちは実際に手を動かして練習し、コミュニケーションツールとしての手話に触れた。日本語の手話には五十音の指文字があることを紹介し、今回は国際的にも理解されやすいアルファベットの指文字に焦点を当てて説明した。自分の名前や簡単な英単語を指文字で表現する練習を行い、遊び感覚で手話に親しむ機会となった。

5 生徒の感想・様子等

「手話が単なるジェスチャーではなく、豊かな表現を持つ言語だと初めて知り感動した。」

「聴覚障がいのある方々とのコミュニケーションについて考える良いきっかけになった。」

「日常生活で使える手話をもっと覚えてみたいと思った。簡単なあいさつから実践してみたい。」

「指文字で自分の名前を表すのが楽しかった。もっと色々な単語を表現できるようになりたい。」

「障がいについて特別なことだと考えがちだったが、手話は身近なコミュニケーション手段だと感じた。」

6 成果・課題

手話が言語であること、そして多様なコミュニケーション手段があることへの理解が深まった。生徒たちは、手話が聴覚障がいのある方にとって不可欠な言語であり、同時に豊かな表現を持つ文化であることを学んだ。

今回の体験を通して、生徒の聴覚障がいのある方々への関心が高まり、共生社会に対する意識が一段と醸成されたと考える。ただし、限られた HR の時間では、手話の奥深さや文化的な背景まで深く伝えるには十分ではなかった。導入としては効果的であったが、より深い理解には継続的な学習機会が必要である。また、今回の活動は、主に教員からの一方的な紹介や簡単な実演に留まり、生徒が実際に手話で会話する機会は少なかった点を課題として挙げる。

1 実施回数

1 回

2 対象者

川崎市立生田保育園年長児

3 実施者

JRC 部生徒（3 名）

4 実施内容

5 月実施の保育園ボランティアにおいて、保育園年長児に手話のあいさつを披露し、一緒に行った。5 月が手話月間であること、手話を用いると聴覚障がいの方とコミュニケーションができること、手話により言葉の世界が広がることを伝えた。紹介した手話を用いて「ありがとうの花」を歌った。また、ボランティアの実施前に、手話を教えるための説明や歌に合わせて手話で表現するなどの練習を重ねた。（練習時 5 名参加）

5 生徒の感想・様子等

園児のみなさんがとても早く手話を覚え、表現できるようになったことに驚いた。一緒に歌を歌いながら楽しく手話を学ぶことができて良かった。

6 成果・課題

（成果）保育園児に手話を教えるという活動を通して、どのように伝えると理解されるのか、楽しく行うためにはどのような工夫が必要なのかを考える機会となり、年長者としての役割を果たせた。

（課題）十分な練習が出来なかったにも関わらず、子供たちが興味を持ってくれたことにより良い活動となった。次回以降はさらに手話の表現を覚え、共有できるように練習を重ねる。



部活動

2

横須賀高等学校

吹奏楽部：老人ホームでの慰問演奏会で手話を紹介

1 実施回数

2回

2 対象者

吹奏楽部生徒（34名）

3 実施者

吹奏楽部顧問、生徒支援グループ 生徒人権・手話担当教諭 海老原雄治

4 実施内容

毎年依頼を受けて訪問する老人ホームでの慰問演奏会や障害者施設を訪問しての演奏披露の場で、手話を交えての曲目解説、あいさつをすることにより、充実した経験になると考えて実施した。まずは「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」のあいさつから始め、50音の手の動きを実演した。生徒の関心も大きく、楽しく学ぶことができた。

5 生徒の感想・様子等

手話の経験がない生徒が多かったので、1回目「あいさつの練習」ではかなりの生徒が興味を抱き、2回目になるとネットで手話について調べ、お互いに手話で会話する生徒も数名出てきた。手話の大切さや意義を強く認識できたとの感想を述べていた。

6 成果・課題

今回は、吹奏楽部員に対する取組であったが、あいさつの手話を覚えると、次の段階に進みたいとの気持ちが芽生え、自ら手話に興味を持った者同志で調べるなどの成果が出たと考えている。普段の生活でも自然に手話が出てしまうくらいになっていることが事実である。授業の中でも機会があれば手話を取り入れたい。



1 実施回数

1回

2 対象者

全校生徒・教職員

3 実施者

写真部・担当教員

4 実施内容

「手話月間・手話」をテーマにした校内写真展を開催し、手話月間・手話への啓発活動をおこなった。高校生作成の手話クイズを Google Classroom に配信し、答え合わせを行った。

5 生徒の感想・様子等

「手話月間・手話」をテーマにして写真を撮るのは難しいと思ったが、手話について考えるきっかけになった。写真部の写真がとても良かった。手話で意思疎通ができるのは、すばらしいと思う。

6 成果・課題

生徒発信の写真展によって、よい刺激になった。去年は手話動画の作成・配信ができたので、今後も、さまざまな活動を通して、生徒が手話に触れ、手話について考えられる機会を作っていきたい。



1 実施回数

6月2日～20日

2 対象者

生徒、教員

3 実施者

生徒、教員

4 実施内容

- 授業、HR の始めと終わりの号令にて、「こんにちは」と「ありがとう」の手話を、教員と生徒が行った。今年度は特に「ありがとう」を浸透させる取組を行った。初日、各クラスのSHRにて、「コミュニケーション技術（手話講座）」の受講生、講師、手話に精通した教員を各クラスに派遣し、実演をして練習を行い、生徒や教員が実践しやすい環境を促進した。
- イラスト部の生徒が、「こんにちは」と「ありがとう」を動作している生徒を描いたポスターを作成し、教室と廊下、階段踊り場に掲示し、動作の確認や実施を行いやすくした。
- 図書室にて、手話コーナーを設置し、図書室を利用する生徒に、より深く興味を促す一助となった。



5 生徒の感想・様子等

- ・所属のクラスで手話を披露するのは取り組みやすかった。（昨年度、所属クラスでの実施を望む手話講座受講生が多かったため、今年度は配慮した）
- ・手話月間が当たり前になって、スムーズにできるようになった。
- ・動作を大きく明確にすると伝わりやすい。

6 成果・課題

- ・昨年度より取組自体が浸透してきている。
- ・初日の実演は所属クラスの生徒が行うことで、より親近感をもって実践につながった。
- ・まだ行える取組があるはずなので、より実施を推進できる内容を試みる必要がある。



1 実施回数

手話強化月間期間中（2025 年 5 月 1 日～ 5 月 31 日）

2 対象者

全校生徒

3 実施者

教員、学校司書

4 実施内容

- ・期、組を表す指文字のポスターを、各 HR 教室の扉に掲示した。（写真添付）
- ・図書室に、手話に関する本を集めたコーナーを設置した。
- ・図書室にて、手話クイズラリーを実施した。全 5 問用意し、全て答えた人には、ミニ認定証をプレゼントした。（写真添付）
- ・手話の指文字のパズルを作成し、図書室でいつでも遊べるようにした。（写真添付）
- ・手話月間に関するポスターを掲示し、SHR にて生徒に周知を行った。

5 生徒の感想・様子等

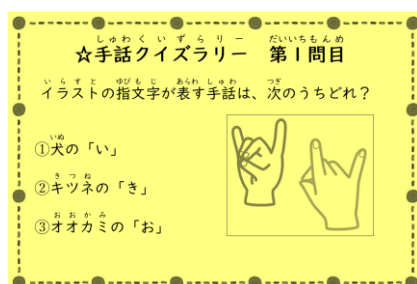
- ・接客などでたまに耳が不自由な方もいたりするので、みんなが手話について理解を深めるとともに、少しでも学習しやすくなったらいなと思いました。
- ・簡単な指文字を覚えておくとう便利だと思いました。
- ・貼り紙がすごく個人的に良くて、友達と見ながらやるのが楽しかったです。

6 成果・課題

- ・実施後にアンケートを取ったところ、そもそも手話強化月間だと知らなかったという生徒が、全体の約 67%であった。SHR で呼びかけを行ったり、ポスターを貼ったりと周知には努めたが、うまくいってなかったようだ。放送で呼びかけを行ったり、授業内で触れたりすることで、取り組んでみようと思う生徒が増えるのではないかな。
- ・「ためになった」「楽しかった」という意見もあったため、少しでも手話に対する興味関心を引き出せたと考えている。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

- ・期、組を表す指文字のポスターを、各 HR 教室の扉に掲示。（2025 年 6 月 1 日以降も継続）



1 実施回数

図書館特設コーナー：1回

情報Ⅰの授業：2回

2 対象者

図書館特設コーナー：全校生徒

情報Ⅰの授業：1年次生全員

3 実施者

図書館特設コーナー：図書委員会

情報Ⅰの授業：情報Ⅰ担当教諭

4 実施内容

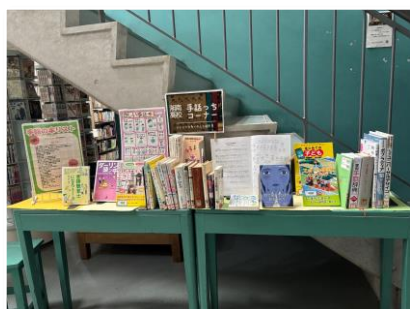
- ・図書館の蔵書から手話や聾、ユニバーサルデザインに関する資料を抜き出し、展示した。生徒の要望から英語に対応した手話に関する本も取り寄せ展示した。ブックリストを作成し、希望者へ配布すると共に、図書館内のインフォメーションディスプレイでも告知した。
- ・1年次生対象の情報Ⅰの授業で、神奈川県作成リーフレット「手話を楽しく学ぼう!」を参考にした手話動画を作成し、動画を見ながら「あいさつ」や「簡単な話しかけ」を学び、実践した。

5 生徒の感想・様子等

- ・あいさつや自分の名前を手話で表現してみたい。
- ・リーフレットとわかりやすい動画で、手話を体験することができて嬉しかった。
- ・手話の本を手にとってもらえるように考えながら配列した。

6 成果・課題

- ・展示を通して手話に興味を持つ生徒の様子が見られた。
- ・動画を見ながら実際に手を動かし手話ができたと成果であり、友人同士で見せ合いができるとさらに良かった。



その他

1

七里ガ浜高等学校

図書館のショーケースで手話に関する本を展示

1 実施回数

1回

2 対象者

生徒、教員

3 実施者

学校司書

4 実施内容

図書館の廊下に面したショーケースで手話の本を展示した。展示した本は10冊で、手話辞典、手話の学習方法、手話通訳の役割などの本である。それぞれの本の内容が分かるようにキャプション（概要や書評など）も展示した。また、手話をビジュアル的に理解しやすいように、基本的な手話の動作イラストや指文字表（五十音と英語のアルファベット）もパネルにして展示した。

5 生徒の感想・様子等

普段あまり触れることのない手話について、自分にとって身近な学校図書館という場に分かりやすく展示されていて、とても良かったです。私は将来、手話の仕事に就くことが夢なので今回、展示されていた本は、大変参考になりました。私以外でも手話を学びたい人の参考にもなったと思います。

6 成果・課題

（成果）将来、手話に関する仕事を希望する生徒から、「展示されていた本を読みたい」という声があり、所蔵されていない本についても今後リクエストしたいという希望が寄せられた。

（課題）手話に関心を持つ生徒は一部に限られていたため、より多くの生徒が本を手に取りやすいように、今後はショーケース展示だけでなく、図書館内にも別置の特設コーナーを設けるなどの工夫が必要である。



1 実施回数

令和7年5月1日～令和7年5月31日

2 対象者

全校生徒

3 実施者

図書委員会、学校司書 佐々木美知、外国語科教諭 日高実紀

4 実施内容

図書館前にイーゼルを使用して手話に関する本を掲示した。掲示した本はイラストが多いものなど生徒にとって手話が身近に感じることができるものを厳選した。また、その本に関するポップを図書委員会の広報係の生徒に書いてもらい、本の近くに掲示した。

5 生徒の感想・様子等

- ・手話月間を通して、手話について興味を持つようになりました。テレビで、手話でニュースを伝えているのを見て、手話は自分たちが気付いていないだけで、身近にあるものなんだなと感じました。これからも手話に興味を持って生活していきたいと思いました。
- ・手話を通して心のバリアフリーを学ぶことができ、また、聴覚障がい者とのコミュニケーションが円滑になり、共生社会の実現につながったと思った。
- ・自分が思っているより、日常的な手話もあって、自分の中では堅苦しいイメージがあったけど、もっとみんなが手話をできるようになってほしいなと思いました。
- ・手話には種類が多く、その分手話をつかった会話をしている人が多くいることが分かった。また、手話についての理解を深めることによって、よりよい社会の実現ができると考えた。
- ・手話は国が違ってもコミュニケーションがとれるので、グローバルな言語だなと感じました。国を超えて広がっていくような言語はカッコイイと感じた。

6 成果・課題

手話に関する本のポップ作りを図書委員会の広報係の生徒が担当したことで、多くの生徒の目に留まり、興味を持つきっかけになったと感じた。

今後の課題としては図書館を利用しない生徒にとっても手話が身近に感じられるようにホームルーム等で手話であいさつをする活動など、実践的な取組をしていきたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

手話に関するポスターの掲示（予定）

手話ポスター紹介

手話での表現にチャレンジ！



研究開発 G

横浜旭陵高等学校

手話での表現にチャレンジ！



研究開発 G

横浜旭陵高等学校



金沢総合高等学校
イラスト部 3年 石田 菜緒
イラスト部 3年 能戸 風花



霧が丘高等学校
福祉委員 2年 H. A.



霧が丘高等学校
福祉委員 1年 平尾 莉子



霧が丘高等学校
福祉委員 1年 福井 天音



霧が丘高等学校
福祉委員 3年 小野川 優真



霧が丘高等学校
福祉委員 2年 T. T.



平塚江南高等学校
2年 井上 叶望



秦野高等学校
社会福祉委員会 1年 大須賀 美波



伊勢原高等学校
美術部 2年 大城 アキラ

発 行 令和 7 年11月10日

編 集 者 神奈川県教育委員会教育局指導部

高校教育課長 渡貫 由季子

発 行 者 神奈川県教育委員会

〒231-8588 横浜市中区日本大通 1

TEL (045) 210-1111 内線8260